

日本の大学アーカイブス

—広島大学文書館を一例に—

広島大学文書館館長

小池 聖一 こいけ・せいいち

はじめに

日本における大学文書館は、年史編纂事業を契機として設立されてきました。多くの大学文書館は、大学史のための収集アーカイブであり、大学史教育と研究を行う機関です。

本報告では、日本の大学文書館を類型化し、その特徴を明らかにします。そのうえで、広島大学文書館を一例に、日本の大学文書館の今後について明らかにしたいと思います。

1. 日本の大学文書館

大学文書館は、全国大学史資料協議会を設けて連携しています（107機関加盟）。全国大学史資料協議会は、1986年から準備され、1988年に東日本を中心に「関東地区大学史連絡協議会」が、西日本でも、1990年に「西日本大学史担当者会」が設立され、広島大学にて1996年4月に合併して成立しました（62大学）。現在、研究会を通じ、情報共有し、各大学における諸活動の向上を図っています。しかし、大学文書館は、国立大学でも、86校中類縁施設も含めて11校（12.7%）しかないのが現状です。このうち、2011年4月「公文書等の管理に関する法律」（2009年法律第66号）の施行とともに、内閣総理大臣の指定機関となったのは、広島大学文書館を含め6校にすぎません。

今日、大学アーカイブスは、その設立にあたっての特徴から、1) 公文書館型、2) 年史編纂型、3) 創立者・創立経緯重視型、4) 同窓会対応型、の四つに類型化できます。

まず、1) 公文書館型とは、大学の文書管理業務と連携をとって設置されるもので、国立大学が

中心です。業務は、保存期限を満了した文書を評価、選別して整理・保存し、公開することです。2) 年史編纂型は、大学創立から50年周年等を記念して作られる年史編纂事業の過程で設立された大学文書館です。基本的に、年史編纂型の大学文書館は、この年史編纂事業の過程で収集された史資料を基盤としています。3) 創立者・創立経緯重視型の大学文書館は、日本の私立大学に多い大学文書館です。基本的な特徴は、展示施設を付随させていることで、大学の伝統・学風の教育機関として機能しています。4) 同窓会対応型大学文書館は、大学の同窓会等を基盤とするものです。前者の三つの型が、大学の管理・運営および教育・研究という大学機能に準拠して設立されたものであるのに対して、同窓会対応型大学文書館は、学生・学生生活を中心に資料を収集し、公開する点に特徴があります。

このような日本の大学文書館における四つの類型を基盤にしつつ、一つのモデルとして広島大学文書館の組織、活動等について紹介いたします。

2. 広島大学文書館の基本方針

広島大学文書館は、2004年4月に設立されました。三次にわたって拡張されて現在、延べ床面積835㎡、総書架約4317.3mです。専任の館員は3名。兼任の私を入れても4名の小さな組織です。ちなみに、国立大学法人広島大学は、学生数15,520名、教職員数3,307人の総合大学です。

広島大学文書館は、以下の6点の基本方針を有しています。第一は、法人文書の管理機関として機能することによって大学業務組織の効率化をサポートすること。第二は、大学の個性化を演出す

ることです。第三は、教育・研究の基盤形成です。講義を提供し、全学的な研究基盤となるよう史資料の収集・整理を行っています。第四は、「入学前から卒業後まで」です。大学の主要構成員である学生・卒業生と関係し、広島大学に対するアイデンティティー育成に力を注ぎ、次世代・次々世代に広島大学での活動が受け継がれるのをサポートしています。第五が、地域との連携です。具体的に、オーラル・ヒストリー事業および公開講座をおこなっています。地域との連携によって個性化を促進させるとともに、意識としてはローカルの場に根ざした活動こそがグローバルへの道筋であると考えています。第六が、地域にある大学として情報を発信し続けることです。各事業については、書籍、報告書・冊子、インターネット等、各種媒体で発信しています。日本語での発信が中心なのですが、創設以来、書籍6冊、報告書5冊・目録4冊、オーラル・ヒストリーを3冊、研究紀要も毎年発行しています。

文書館の各事業は、公文書室機能を中心とした大学のシンクタンク化と、大学史資料室機能を中心とした教育・研究機関としての方向性のなかで展開されています。

3. 広島大学文書館の組織と活動

次に、広島大学文書館の組織からみた活動を紹介します。広島大学文書館は、公文書室と大学史資料室の二室に閲覧室・事務室を附属させて設立しました。公文書室は、非現用化した大学の公文書・法人文書の整理・公開を主務とする機関アーカイブスの機能を有しています。広島大学50年史編纂事業を継承した大学史資料室は、個人文書の収集アーカイブスとしての機能を有しています。

3.1 公文書室

広島大学文書館では、公文書室を中核に置き、現用から非現用化の過程整備を重視して、いかに質の高い記録文書を残すか、ということを考えてきました。

広島大学文書館では、現用記録の段階から、財務・総務室総務グループと連携をとって共同で公

文書管理を行っています。総務グループとは、本部中間書庫の整理をともに行ったことで信頼関係を作りました。

その総務グループを中心に文書館も協力して文書管理システムを開発し、文書作成の時点から重要度をつけ、文書の評価・選別が容易になるようにしています。3年前よりこのシステムが本格稼働し、年を経るごとに各部署の文書管理が改善し、移管・廃棄作業も省力化が進んでいます。文書のライフサイクルが整備され、基本的にすべての文書が文書館のチェックを経るようにしています。このため、文書の廃棄権限も文書館長が持っています。さらに2011年1月には、法人本部棟の中に公文書室の分室を設置し、本部業務組織の特定歴史公文書と、学内の刊行物を集中管理し、本部業務組織の職員の利便性をたかめ、業務の効率化を図るようにしました。

また、広島大学文書館は、設立以来、広島大学内の初任者・中堅者研修等に参画し、文書管理について講義・研修を行ってきました。こうした実績を踏まえ、2011年12月には、国立大学協会を通じて中国・四国地区の国立大学法人および国立高等専門学校などの文書管理担当者に対する研修を広島大学文書館が主催し実施しました。

文書管理における公文書の信頼性を高めるため、広島大学文書館では公文書管理法の対象となる特定歴史公文書を非現用化した法人文書に限定しています。文書は、作成段階で「公文書」「私文書」と分類できますが、所蔵段階では「公文書」と「個人（団体）文書」に分類されます。このため、大学史資料室が所管する個人文書は、学術的資料としています。理由は、書簡・書類等きわめて多様な個人文書を、公文書管理法で示されたガイドラインに基づく1年以内での整理公開というのが、現状の人員や施設、予算規模においては困難と考えられるからです。また、公開にあたり寄贈者との契約があるため、利用を制限する必要があります。

3.2 大学史資料室

大学史資料室は、収集アーカイブスであり、広

島大学50年史編纂事業を継承して設置しました。大学史資料室の所蔵資料は、基本的に、①新制広島大学に包括された旧制諸学校の旧蔵文書（広島高等師範学校、広島文理科大学等）、②広島大学関係者の個人文書（特に、歴代学長の関係資料は充実している。教職員・卒業生の旧蔵文書・資料）、③同窓会（旧制広島高等学校同窓会旧蔵資料）・教職員組合の関係文書、④広島大学50年史編纂事業で収集した他館等所蔵の複製物、の四つに分類できます。

こうしたコレクションの中で特筆すべきは、三つの特殊文庫を設けていることです。この特殊文庫は、広島大学の特性を明らかにします。

森戸辰男もりとたつお記念文庫では、初代学長森戸辰男（1888-1974）の生涯にわたる関係資料36,957点を所蔵し、公開しています。森戸辰男は、戦前、思想弾圧事件で東京大学を追われました。第二次大戦後は政治体制が一変したため、森戸は衆議院議員となり、日本国憲法および教育基本法の制定に関与しました。また、文部大臣にも就任し民主的な教育制度の構築に尽力しました。その後、衆議院議員を辞して初代広島大学長となり、広島大学の発展の礎を築きました。その全生涯に関連する文書を収集した本文庫は、広島大学の建学の精神・「自由で平和な一つの大学」も明らかにしています。

平和学術文庫では、第二次大戦後の広島の平和運動に関する個人文書を収蔵しています。広島大学の前身校の多くは、1945年8月6日の原爆によって大きな被害を受けました。このため広島大

学の教職員や卒業生の中には、平和運動において中心的な役割を担った人が多数います。一例として中国新聞社論説主幹で原爆報道の第一人者であった金井利博かないとしひろ（1914-1974）が挙げられます。広島大学文書館では、この金井を中心としたジャーナリストの個人文書を収集しています。このほかにも被爆者援護運動、原爆被災白書運動および原水爆禁止運動関係の資料について、約6万点の個人文書を収集し、順次、整理・公開しています。

梶山季之かじやまとしゆき文庫では、広島大学の前身校の一つ、広島高等師範学校卒業の小説家・梶山季之（1930-1975）の関係資料約1万点を収集・整理しています。梶山は、高度成長期の流行作家でしたが、ルポライターとしての経歴も有していました。本文庫には、小説・記事の制作過程が理解でき、文学的なだけでなく、重要な証言等の歴史資料も含まれています。

3.3 教育・社会貢献

広島大学文書館は、公文書室と大学史資料室の二つの室を軸に、さまざまな個別事業を展開しています。

その一つ、広島大学の同窓生と現役学生との横断組織である校友会についても制度設計段階から関与し、校友会・同窓会への出張展示等も行っています。

また、大学史教育として「広島大学の歴史」を教養教育科目として全学に提供しています。昨年度は、選択科目ですが、「広島大学の歴史」は、976名の学生が受講しました。また、自分の家の歴史を書いてもらう公開講座「我が家の近代史」も開講しています。これらは、森戸辰男の教育理念である大学教育の目的の「人格の涵養」を重視し、同時に大学教育の一般市民への開放・「外に開く」教育を実現するものとも考えています。

2011年3月11日の東日本大震災を契機として、地域との連携としては、日本では初めて大学文書館と地方自治体公文書館である広島県立文書館との間で、2011年9月に災害等の発生に伴う史・資料保護に関する相互協力協定を締結しました。こ



報告する小池聖一—広島大学文書館長

れにより、災害時の被害を最小限度にしたいと考えています。

おわりに

以上のように、広島大学文書館は、1) 公文書館型、2) 年史編纂型、3) 創立者・創立経緯重視型、4) 同窓会対応型、という四つの大学文書館類型全ての要素を持っています。また、機関アーカイブスであると同時に、収集アーカイブスでもある複合的アーカイブスなのです。そして、公文書室における法人文書の整理・公開、大学史資料室における個人文書の収集・整理・公開を基盤

に、各事業は、二つのサイクルをもって連動させ、業務間の円滑化も図っています。

大学アーカイブスは、大学の個性を際立たせるため、広島大学文書館のような複合的アーカイブスに移行しつつあります。しかし、公文書管理法の施行が、大学文書館の設置を促進させるものと考えていたのですが、公開に偏し、管理に関する規制が多いため経費がかかりすぎるため、国立大学でも設立が進んでいないのが実情です。

最後に、広島大学文書館は、個性を持ちつつ、バランスのあるアーカイブスを今後も目指していきたいと考えています。

原 題：University Archives in Japan : an Experience of the Hiroshima University Archives

報告者：Seiichi KOIKE, Director, Hiroshima University Archives, Professor, Graduate School for International Development and Cooperation Hiroshima University